

調査の概要

- 1 根拠要領：神奈川県年齢別人口統計調査事務処理要領
- 2 調査時期：平成30年1月1日午前零時現在
- 3 調査方法

この調査は、平成27年国勢調査の調査票情報を独自集計した年齢別人口を基礎とし、市町村長の報告に基づく住民基本台帳法及び戸籍法に定める出生、死亡、転入、転出の年齢別異動人口を加減して毎年1月1日現在の年齢別人口を算出し、県でとりまとめたものです。

4 地域別市町村名

地域名	市町村名
横 浜	横浜市
川 崎	川崎市
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
県 央	相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
湘 南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町
県 西	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町

用語の解説

1 年 齢：調査日前日による満年齢

2 年齢（3区分）別人口

├──	年少人口（0～14歳）
├──	生産年齢人口（15～64歳）
└──	老年人口（65歳以上）

3 年齢構造指数

├──	年少人口指数：生産年齢人口に対する年少人口の比率
├──	老年人口指数：〃 〃 老年人口の比率
├──	従属人口指数：〃 〃 (年少人口＋老年人口)の比率
└──	老年化指数：年少人口に対する老年人口の比率

4 性 比：女性100人に対する男性の数

5 平均年齢の算出方法

$$\text{平均年齢} = \frac{\text{年齢（各歳）} \times \text{各歳別人口の和}}{\text{総人口} - \text{年齢不詳人口}} + 0.5 \text{（満年齢後の経過月数調整値）}$$

（小数点第3位以下切り捨て）

利用上の注意

- 1 神奈川県年齢別人口統計調査は、国勢調査による年齢別人口を基礎として推計し、本県が昭和51年から毎年1月1日現在にて実施しているものであり、本報告書に使用しているそれより前の数値は、総務省が大正9年から5年ごとに実施している国勢調査結果（各年10月1日現在）を使用しています。
- 2 年齢不詳は、平成27年国勢調査の数値で、国勢調査の中間年次（平成28年～32年）はその数値となります。
- 3 全国の数値は、「人口推計」（総務省統計局）(<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2.htm#monthly>)を使用しています。
- 4 数字の単位未満は四捨五入してあり、合計の数字と内訳の計が一致しない場合があります。
- 5 解説中に用いている「ポイント」とは、比率の差を表します。「ポイント」は小数点第2位以下の数値で算出しているため、表上の数値と一致しない場合があります。
- 6 人口の総数には年齢不詳を含んでいますが、構成比は年齢不詳を除いて算出しています。
- 7 転入、転出には、県内市区町村間の移動を含みます。
- 8 該当数値がマイナスのものは、当該数値の前に「-」又は「△」を付けて表記し、該当数値がないものは、「-」で表記しています。

調査結果の概要

1 年齢（3区分）別人口

- (1) 平成30年1月1日現在の神奈川県の新人口は、916万3279人(男性457万674人、女性459万2605人)です。【表1、3、4参照】
- (2) 年齢(3区分)別人口は、年少人口(0～14歳)111万7039人、生産年齢人口(15～64歳)570万3570人、老年人口(65歳以上)225万9744人となり、老年人口が年少人口を114万2705人上回っています。昭和51年1月1日調査(調査開始年)と比較すると、総人口は、274万445人増加しており、年少人口は52万3390人減少、生産年齢人口は126万5780人増加、老年人口は191万8779人の増加となっています。【図1、表1、11参照】
- (3) 平成29年1月1日現在の調査(以下「前年調査」という。)に比べると、総人口は1万5879人増加しており、年少人口は1万1387人減少、生産年齢人口は1万2230人減少し、老年人口は3万9496人増加となっています。【図2、表1、6、11参照】
- (4) 年齢(3区分)別人口の構成比は、前年調査に比べ、年少人口は0.1ポイント低下し12.3%(全国値12.3%)、生産年齢人口は0.2ポイント低下し62.8%(同59.9%)、老年人口は0.4ポイント上昇し24.9%(同27.8%)となっており、全国値と比べると、年少人口は同率、生産年齢人口は2.9ポイント高く、老年人口は2.9ポイント低くなっています。
【図3、表1、6参照】
- (5) 年齢構造指数のうち、年少人口指数は19.6、老年人口指数は39.6、従属人口指数は59.2であり、1.7人の生産年齢者で1人の年少者又は高齢者を支えていることとなります。
また、老年化指数は202.3で、今回初めて200を超えました。これは、年少者1人に対し高齢者2.0人の割合となります。
なお、県の値はすべて全国値(年少人口指数20.5、老年人口指数46.5、従属人口指数67.0、老年化指数226.4)より低くなっています。
【図4、表2参照】

年齢（3区分）別人口及び構成比

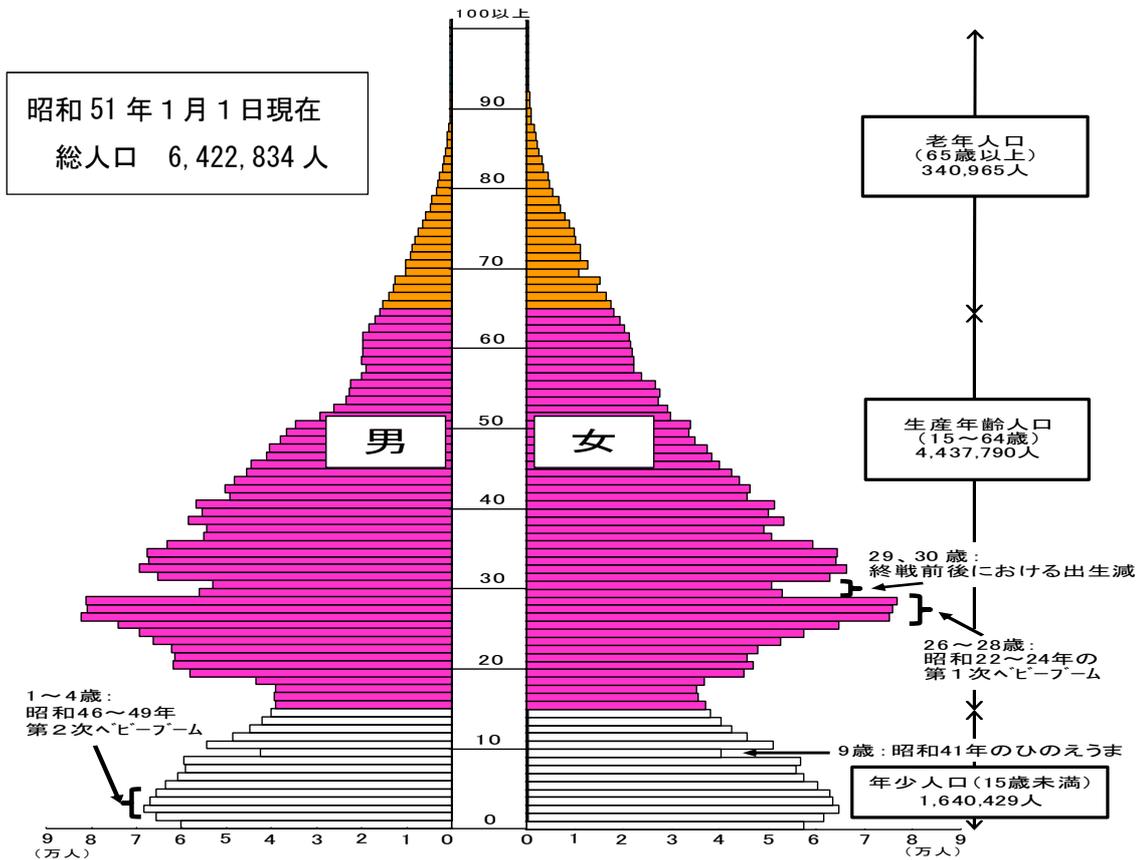
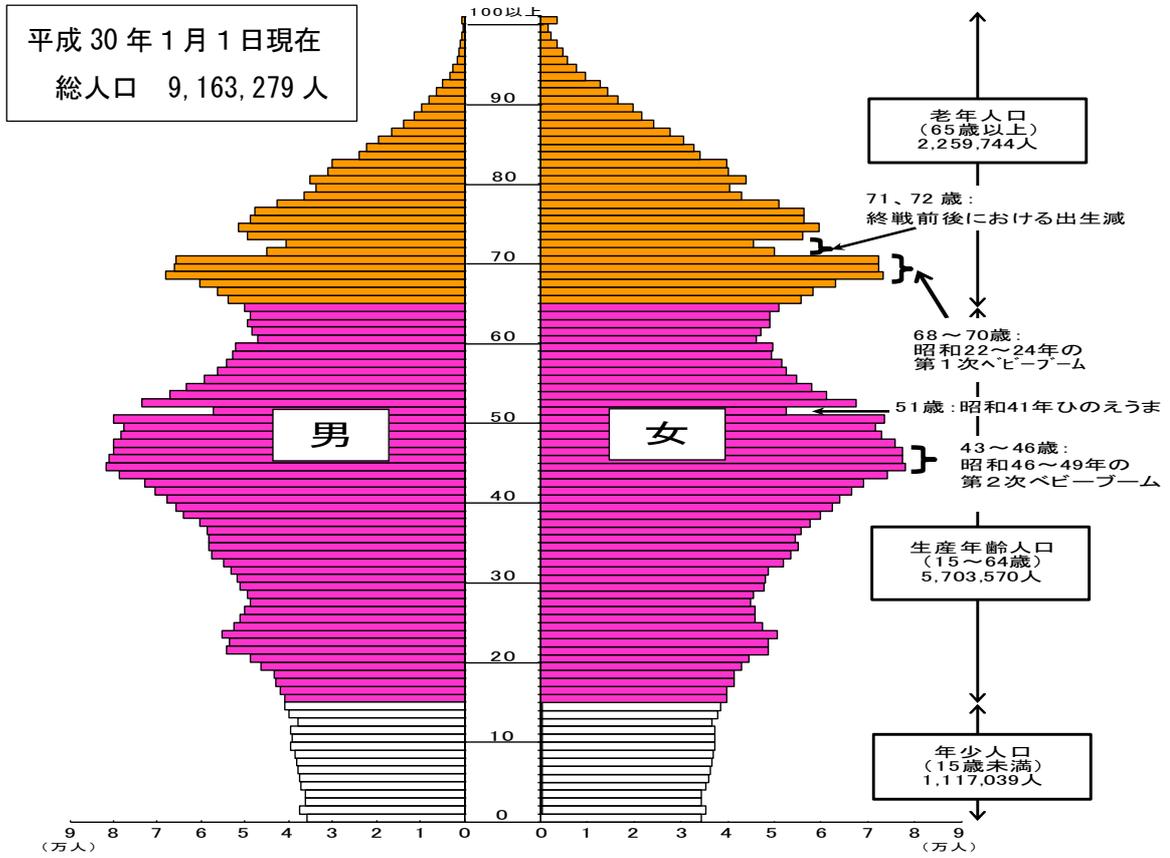
年齢(3区分)	平成30年		平成29年		増減		全国(平成30年)	
	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	構成比(%)	人口(人)	ポイント	人口(万人)	構成比(%)
総数	9,163,279	-	9,147,400	-	15,879	-	12,659	100.0
年少人口 (0～14歳)	1,117,039	12.3	1,128,426	12.4	△11,387	△0.1	1,556	12.3
生産年齢人口 (15～64歳)	5,703,570	62.8	5,715,800	63.1	△12,230	△0.2	7,581	59.9
老年人口 (65歳以上)	2,259,744	24.9	2,220,248	24.5	39,496	0.4	3,523	27.8

(注) 1 県の人口の総数は、年齢不詳を含むため、内訳と一致しない。構成比は年齢不詳(82,926人)を除いて算出している。

2 ポイントは小数点第2位以下の数値で算出しているため、表上の数値と一致しない場合がある。

人口ピラミッド〈年齢（各歳）、男女別人口〉

図1 (昭和51年（神奈川県年齢別人口統計調査開始年）との比較)



※人口ピラミッドには年齢不詳は含まない。

図2 年齢(3区分)別人口の推移

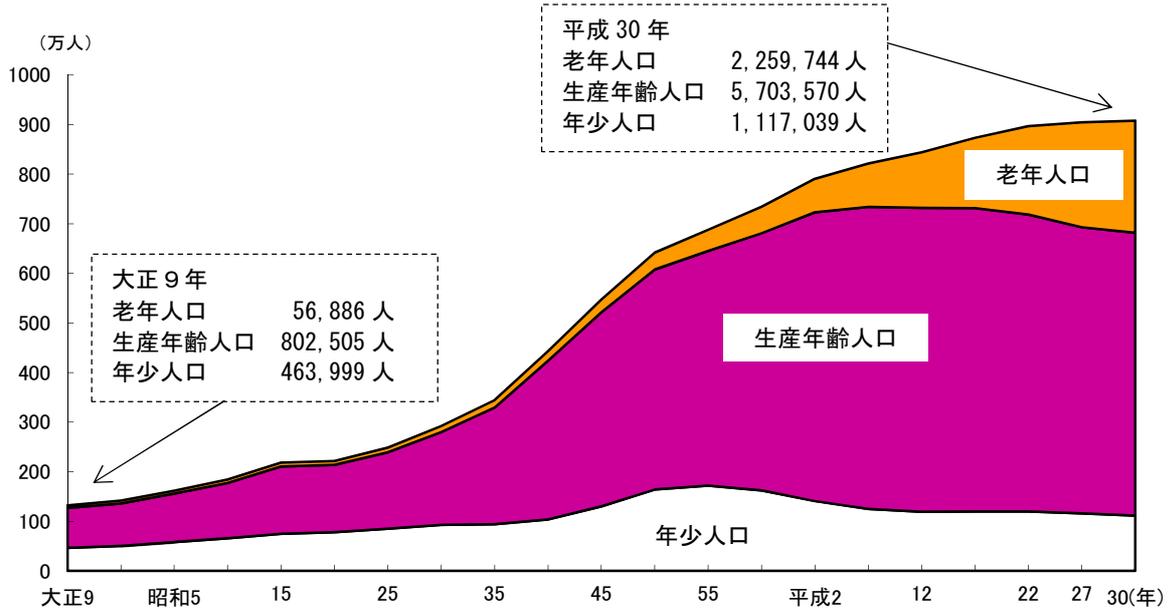
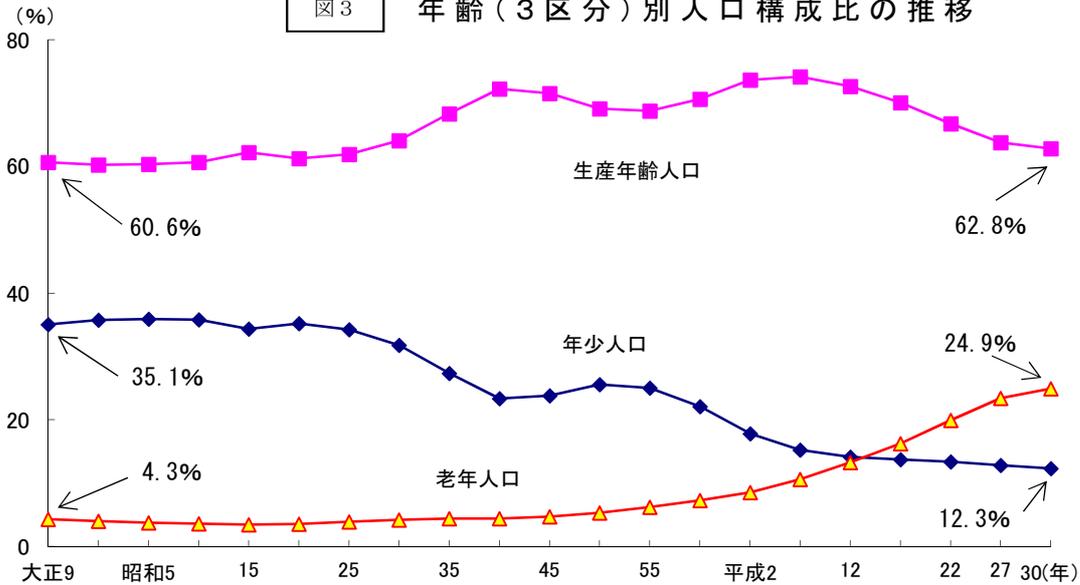
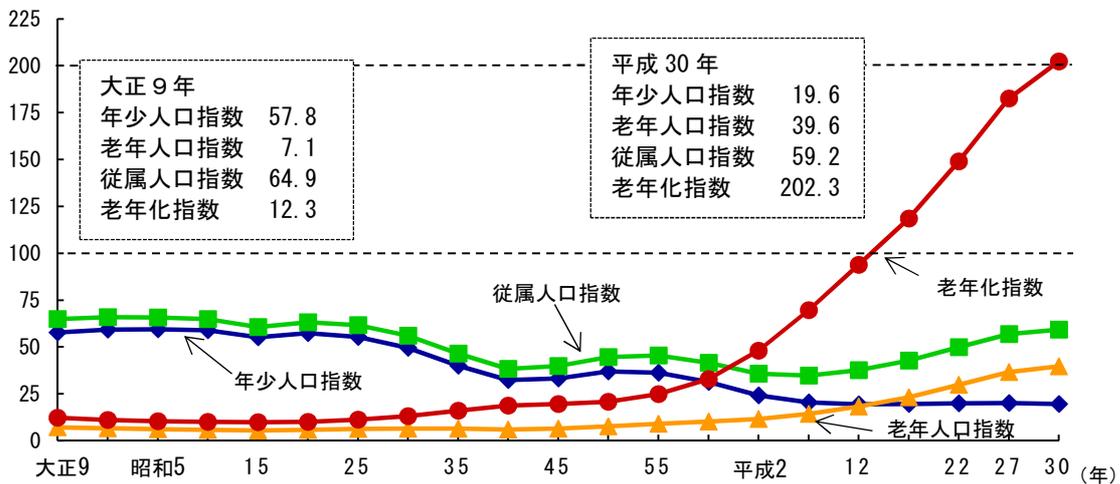


図3 年齢(3区分)別人口構成比の推移



(注) 構成比は年齢不詳を除いて算出しています。

図4 年齢構造指数の推移

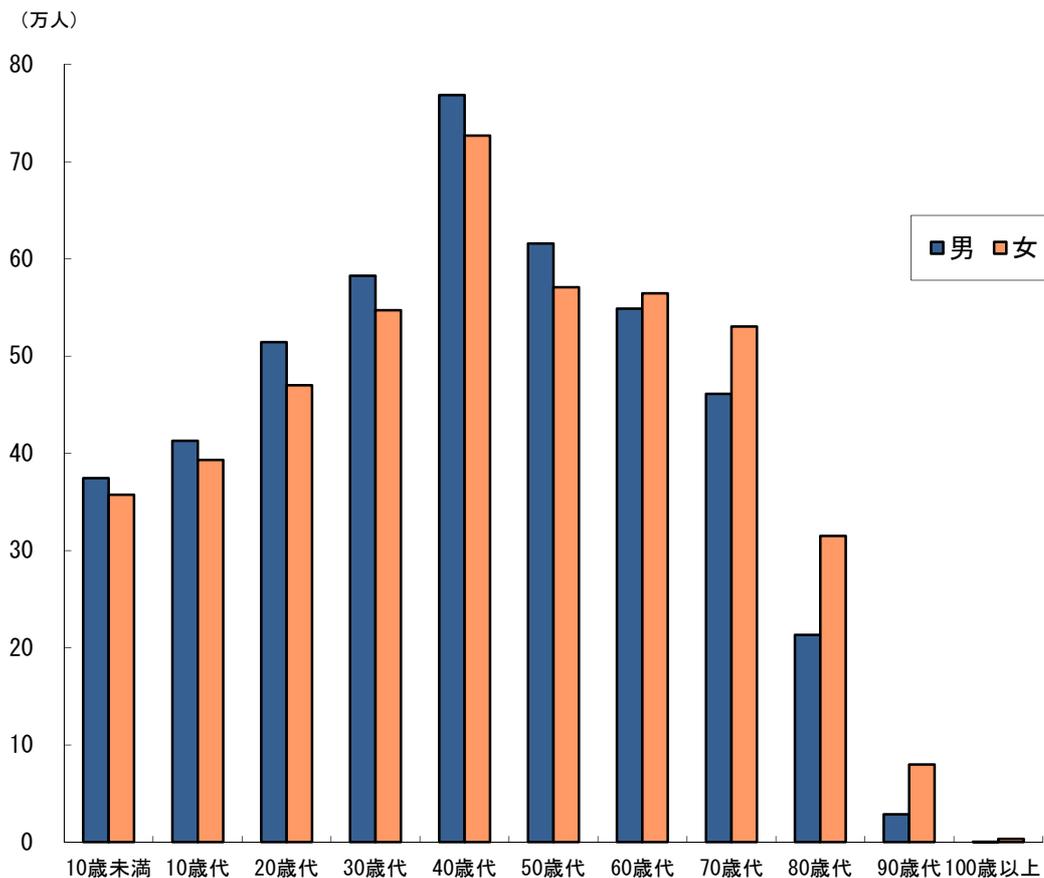


2 年齢（10歳階級）別人口

- (1) 年齢（10歳階級）別人口は、40歳代が149万5249人（人口構成比16.5%）と最も多く、次いで50歳代の118万6602人（同13.1%）、30歳代の112万9691人（同12.4%）の順となっています。【表3参照】
- (2) 前年調査より10歳未満、10歳代、30歳代、40歳代、60歳代の人口は減少し、20歳代、50歳代と70歳代以上の年齢階級は増加しています。【表3参照】
- (3) 男女別人口で見ると、男性では40歳代が76万8424人（男性に占める割合は17.0%）と最も多く、次いで50歳代の61万5733人（同13.6%）、30歳代の58万2565人（同12.9%）の順となっています。
女性では40歳代が72万6825人（女性に占める割合は15.9%）と最も多く、次いで50歳代の57万869人（同12.5%）、60歳代の56万4502人（同12.4%）の順となっています。

【図5、表3参照】

図5 年齢（10歳階級）別、男女別人口数



3 性比

- (1) 総人口を男女別にみると、男性が457万674人、女性が459万2605人で、女性が2万1931人多く、性比（女性100人に対する男性の数）は99.5で、前年調査に比べると0.2ポイント低下していますが、全国値（94.8）と比べると4.7ポイント上回っています。
なお、昭和20年を除き、大正9年から平成26年（100.1）までは100以上でしたが、27年（99.9）から100未満となっています。【図6、表4参照】
- (2) 年齢（5歳階級）別の性比は、0～4歳から60～64歳までは100以上であり、20～24歳が109.8と最も高く、続いて25～29歳が109.1です。一方、65～69歳以上では、100未満であり、65～69歳が94.6で、年齢が高くなるにつれ低くなり、100歳以上が16.9です。
また、神奈川県は全国よりほぼすべての年齢階級で上回り、50～54歳が8.1ポイント（全国値100.9）と最も上回っています（5～9歳、15～19歳は下回る。）。【図7、表4参照】

図6 性比の推移

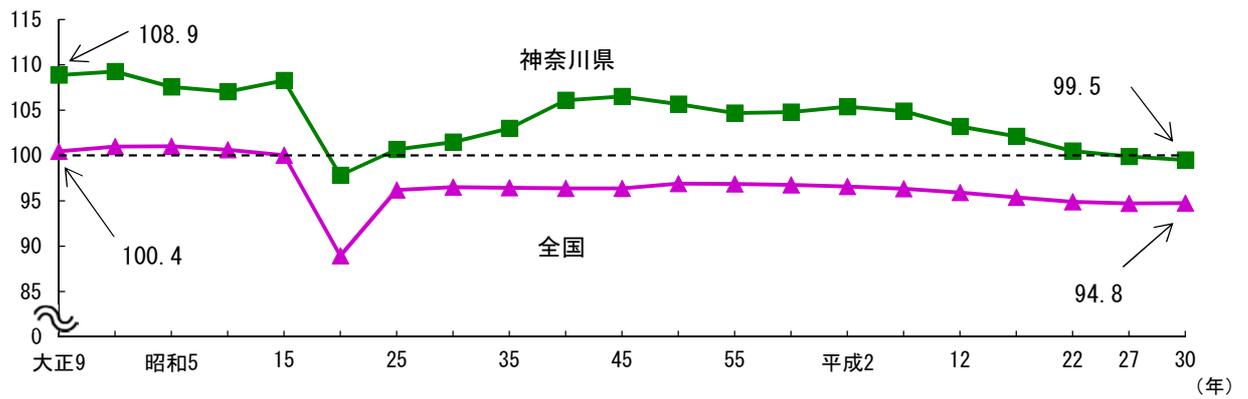
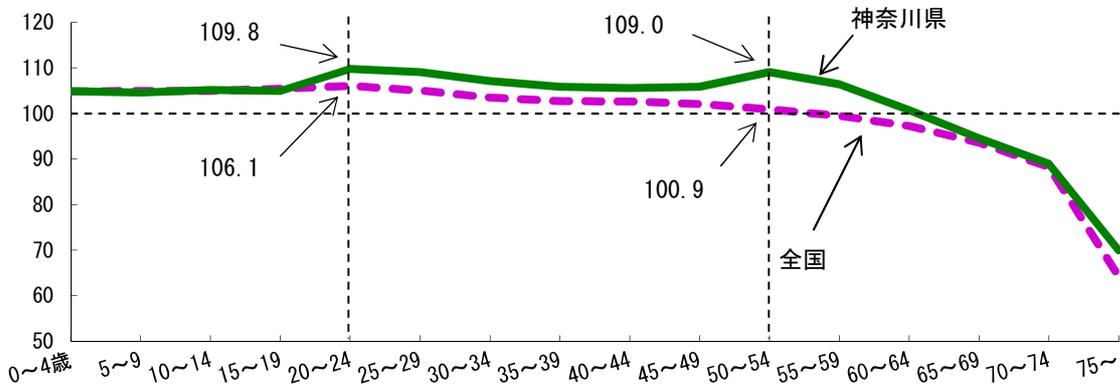


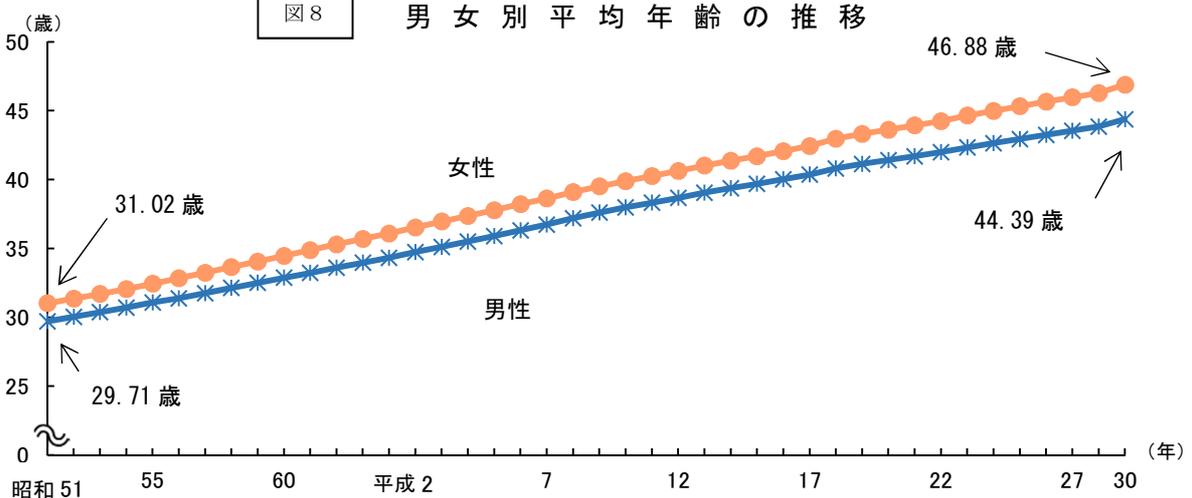
図7 年齢（5歳階級）別性比



4 平均年齢

- (1) 平均年齢は45.64歳で前年調査に比べ0.28歳高くなっています。【表5参照】
- (2) 男女別平均年齢は、男性が44.39歳(前回調査に比べ0.27歳上昇)、女性が46.88歳(同0.30歳上昇)で、男女を比べると女性が2.49歳高くなっています。なお、昭和51年(調査開始年)から男女ともに一貫して上昇しています。【図8、表5参照】
- (3) 県内6地域別の平均年齢が最も高い地域は横須賀三浦地域で49.07歳、次に県西地域で48.86歳。最も低い地域は川崎市で43.21歳、次に県央地域の45.51歳となっています。
また、市区町村別では真鶴町(54.86歳)が最も高く、中原区(40.93歳)が最も低くなっています。【表7、10参照】

図8 男女別平均年齢の推移



5 地域別、年齢（3区分）別人口の構成比

- (1) 地域別の年齢（3区分）別人口構成比の状況は、年少人口の構成比が最も高い地域は川崎市で12.7%、次に湘南地域で12.7%。最も低い地域は県西地域で11.2%、次に横須賀三浦地域で11.2%です。

また、市区町村別では都筑区（16.0%）が最も高く、箱根町（7.1%）が最も低くなっています。

【図9、表6、10参照】

- (2) 生産年齢人口の構成比が最も高い地域は川崎市で67.3%、次に横浜市で63.4%。最も低い地域は横須賀三浦地域で57.1%、次に県西地域の57.7%となっています。

また、市区町村別では中原区（71.6%）が最も高く、湯河原町（50.3%）が最も低くなっています。

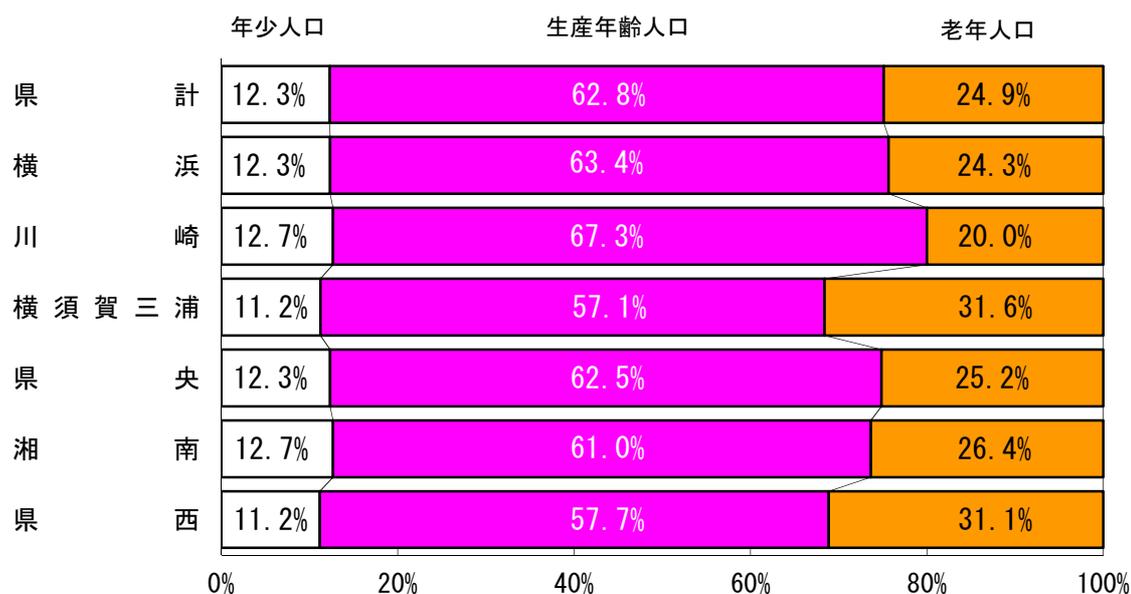
【図9、表6、10参照】

- (3) 老年人口の構成比が最も高い地域は横須賀三浦地域で31.6%、次に県西地域で31.1%。最も低い地域は川崎市で20.0%、次に横浜市で24.3%となっています。

また、市区町村別では湯河原町（41.3%）が最も高く、中原区（15.3%）が最も低くなっています。

【図9、表6、10参照】

図9 地域別、年齢別（3区分）別人口の構成比



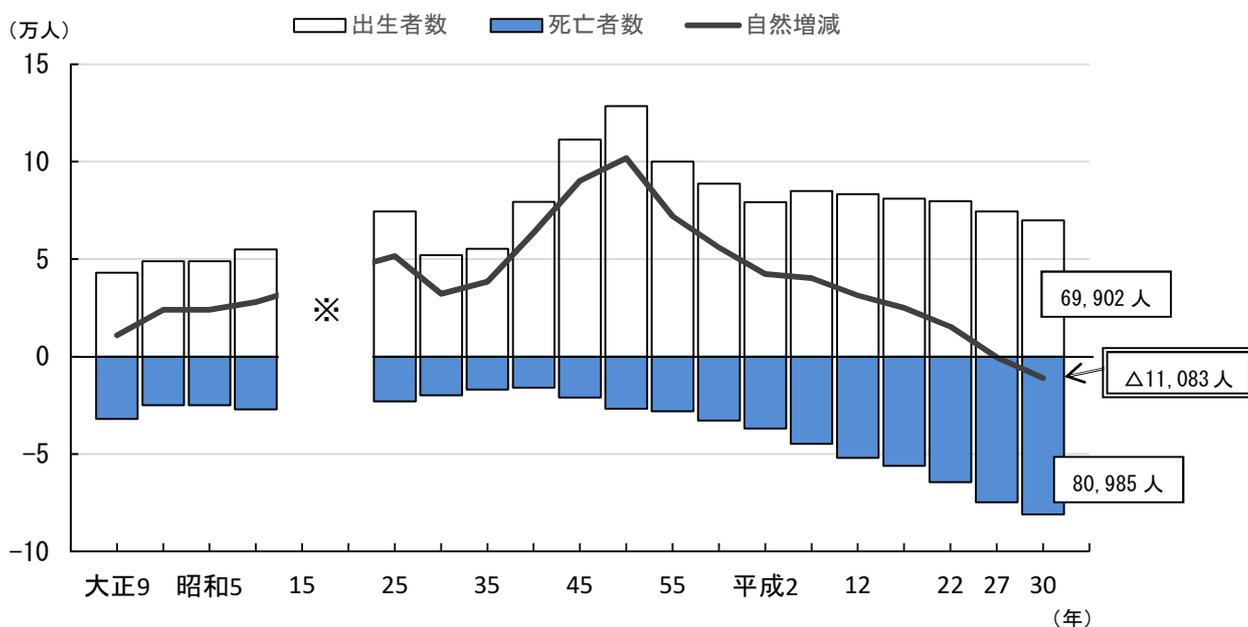
6 年齢別異動人口

- (1) 平成 29 年中の人口増減は 1 万 5879 人増で、その内訳は自然増減が 1 万 1083 人減、社会増減が 2 万 6962 人増となっています。【表 12 参照】
- (2) 自然増減[出生者－死亡者](1 万 1083 人減)は、出生者が 6 万 9902 人、死亡者が 8 万 985 人となっています。【図 10、表 12 参照】
- (3) 社会増減[転入者－転出者](2 万 6962 人増)は、転入者※が 49 万 6793 人、転出者※が 46 万 9831 人となっており、年齢 5 歳階級の社会増減は、20～24 歳が 1 万 4043 人増と最も大きく、続いて 15～19 歳が 6637 人増となっています。【表 12 参照】
- (4) 年齢(10 歳階級)別転入・転出者数は、10 歳未満及び 60 歳代の年齢階級で転出超過(社会減)となり、その他の年齢階級で転入超過(社会増)となっています。

なお、20 歳代が転入者(17 万 5714 人)転出者(15 万 7629 人)ともに最も多く、次に 30 歳代が転入者(12 万 1542 人)転出者(12 万 128 人)ともに多くなっています。【図 11、表 13 参照】

※ 転入、転出には、県内市区町村間の移動を含みます。

図 10 出生・死亡者数及び自然増減数の推移



※昭和 14 年から昭和 20 年までの出生・死亡者数はデータ又は集計がありません。

図 11 年齢(10 歳階級)別転入・転出者数

